

令和 5 年度業務実績評価における改善事項等の対応状況について

1 全体評価（組織、業務運営等に係る改善事項等への記載事項）

- ① 大学院については、学生確保のための努力は認められるものの、志願者の増につながっていない状況にあり、大学が持つ教育研究資源の有効活用・地域への還元の視点からも志願者の掘り起こしが望まれる。
- ② 大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する取組について、令和元年度から該当なしとなっているが、この取組については、大学のステータス向上にもつながり、結果として受験者数の増加、外部資金の流入等にも寄与すると思われることから、今後の取組に期待する。

2 全体評価への対応状況

①	令和 5 年度 改善事項等	大学院については、学生確保のための努力は認められるものの、志願者の増につながっていない状況にあり、大学が持つ教育研究資源の有効活用・地域への還元の視点からも志願者の掘り起こしが望まれる。
	令和 6 年度 の取組状況	令和 6 年度年度計画では、博士課程（前期・後期）の学生確保の強化のため、 ○学部教育との連携を図るために、キャリアセンターにおいて、大学院進学希望者の情報を把握し、学内推薦選抜説明会への参加を促すなどの情報提供を行う。また、大学院進学促進ポスターを学内に掲示するとともに、オリエンテーションを通じて成績優秀者に対して大学院進学の情報提供を行うなどの学内広報を充実させる。 ○社会人入学生を確保するための取組として、改善した広報手段を継続して実施するとともに、行政機関や民間企業への訪問をすすめる。 などの取組を掲げている。 引き続き、様々な機会を通じて、学生確保の取組を実施していく。 ＜取組状況の実績＞※令和 6 年 11 月時点 ・第 I 期募集に係る説明会：4 回開催／参加者 10 名 ・大学院生募集に係る広報活動：企業・団体訪問数 21 件 ・第 I 期募集選抜結果 博士前期課程・・・志望者 2 名／合格者 2 名（＝入学手続完了者） 博士後期課程・・・志願者 0 名
	令和 6 年度 の実施結果	(令和 7 年 6 月報告予定)

②	令和5年度 改善事項等	大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する取組について、令和元年度から該当なしとなっているが、この取組については、大学のステータス向上にもつながり、結果として受験者数の増加、外部資金の流入等にも寄与すると思われることから、今後の取組に期待する。
	令和6年度 の取組状況	令和6年度の年度計画では、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するため、 ○大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する ○教員の研究成果を社会還元するため、青森ケーブルテレビでの公開講座の放映やホームページでの学術リポジトリ、論纂の公開など、積極的な情報発信を行う。 などの取組を掲げている。 引き続き研究活動の積極的な支援を通じて、研究成果の社会還元や情報発信を実施していく。 ＜取組状況の実績＞※令和6年11月時点 ・戦略的研究助成事業の「顕彰」のための選考対象者の基準の決定（5月） ・顕彰該当者：10名（研究費の支援額合計38万円） ・研究成果の本学ホームページでの情報発信（9件）
	令和6年度 の実施結果	（令和7年6月報告予定）

公立大学法人青森公立大学

令和5年度 業務実績評価書

令和6年8月

青森市地方独立行政法人評価委員会

地方独立行政法人法の改正（令和5年6月16日施行）により、公立大学法人については、従来行われていた地方独立行政法人評価委員会による毎年度の業務実績評価が廃止され、法定の評価は4年目終了後の見込評価と6年目終了後の期間評価のみとなった。改正後の規程は、原則、令和6年4月1日以降に開始する中期目標期間に係る年度計画等について適用されるが、本学においては、第3期中期目標期間においてはこれまで同様に年度計画を作成し、評価委員会の年度評価を受けることとしているため、

⇒当該評価の結果の反映状況を公表しなければならない。（地方独立行政法人法第29条抜粋）

※Ⅱ 全体評価 3組織、業務運営等に係る改善事項等（5頁参照）

目 次

I	評価の基本的な考え方等	1 頁
II	全体評価	
1	総評	3 頁
2	業務の実施状況	4 頁
3	組織、業務運営等に係る改善事項等	4 頁
III	項目別評価	
1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）	5 頁
2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	6 頁
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	7 頁
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	7 頁
5	経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	8 頁
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	8 頁
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	9 頁

I 評価の基本的な考え方等

青森市地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、公立大学法人青森公立大学（以下「法人」という。）の令和5年度における業務実績について評価を行った。

評価の実施に当たっては、当評価委員会が定めた「公立大学法人青森公立大学事業年度評価実施要領（令和4年3月24日改正）」に基づき、法人の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

1 項目別評価

中期計画に掲げる次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事業の外形的な進捗状況の評価する。

【大項目】

- ① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）
- ② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）
- ③ 地域貢献に関する目標を達成するための措置
- ④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤ 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- ⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
- ⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

【5段階評価】

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

- 1 -

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、令和5年度における業務実績の全体について、記述式により市民にわかりやすい表現等に努めながら総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

3 青森市地方独立行政法人評価委員会委員

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	成 田 昌 造	青森中央学院大学経営法学部教授 地域連携センター長
委 員 (委員長職務代理者)	奈 須 下 淳	公立大学法人青森県立保健大学事務局長
委 員	安 保 照 子	青森商工会議所常議員
委 員	今 孝 彰	日本公認会計士協会東北会青森県会会員
委 員	田 村 強	株式会社青森銀行取締役専務執行役員

- 2 -

Ⅱ 全体評価

1 総評

公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。

第3期中期目標期間（令和3年度から令和8年度まで）の3年目となる令和5年度は、学生に対する授業評価アンケートを実施しカリキュラムの改善に取り組んでいるほか、人間としての魅力を高めるための教育及び社会的倫理観を身に付けた人材の育成に取り組み、大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために、十分に練られた中期計画、年度計画により着実に業務を遂行し、十分評価できる成果を上げているものと判断できる。

志願者獲得の取組については、高校訪問やオープンキャンパスの実施に加えWEB-DM発送による情報発信など、戦略的広報活動やオンライン出願の開始に加え、手厚い学修支援や教育改善への真摯な取組が、志願者や保護者、高校からの高い評価につながり、高い志願倍率を維持できていることは評価できる。

地域貢献については、地域の政策課題に関連する研究や商工関係団体等と連携した地域活動、公開講座やまちなかラボなどによる研究成果の地域への還元や活性化などに積極的に取り組んでいるほか、大学改革に継続的に取り組みつつ、地域のリーダーとなるべき人材を輩出するとともに、青森市はもとより東津軽郡及び青森県における地域社会の発展に向けて地域に期待され地域に貢献する大学としての使命を果たしているものと評価できる。

経営・財務内容の改善については、受験生確保のための様々な取組により、入学者数も安定的に推移しており、大学の安定運営において最も重要な部分で成果をあげているほか、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴う社会経済活動の再開に加え、昨今の燃料費をはじめとする物価高騰、人件費の上昇や円安など、大学経営を取り巻く環境が厳しさを増す中で、充実した研究活動や教育活動を着実に実施し、健全な財政運営に努めていることは、評価できる。

また、計画的な施設設備の整備のほか、学生・教職員の健康に関する取組や人権意識の向上にもしっかりと取り組んでいることは評価できる。

その他の項目についても、順調に進捗しており、令和5年度の年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したものと評価できる。

- 3 -

2 業務の実施状況

大学の教育研究等の質の向上（教育）に関して、学習成果を可視化した成績チャートの学生本人への通知や学生面談を実施し、学生の育成に取り組んでいるほか、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を活用したカリキュラムの改善に取り組んでいる。

志願者の獲得を図るため、県内外の高校訪問や出張講義、進学説明会、オープンキャンパスを実施し、定員の3.74倍の志願者を確保している。

大学の教育研究の質の向上（研究）に関して、研究成果を地域に還元するため、ホームページや学術リポジトリへの掲載、論纂の刊行、公開講座での積極的な情報発信に取り組んでいる。

地域貢献に関して、各種地域連携活動として、青森まるっとよいどころ祭りの開催や青森市産官学連携プラットフォームでの合同研修・研究発表の開催等を実施している。

業務運営の改善及び効率化に関して、大学運営の参考とするため審議会等の委員等から意見聴取を行ったほか、設立団体の青森市長と法人役員の意見交換を実施している。

経営・財務内容の改善に関して、検定料収入や研究関連収入、その他の外部資金の積極的な獲得活動の実施に加え、内部統制規程に基づく各種監査の実施や教職員の法令遵守に対する意識向上に取り組んでいる。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関して、中期計画の定期的な進捗管理を行うとともに、業務実績等に係る外部評価結果を活用したPDCAサイクルによる継続的な改善に取り組んでいる。

その他業務運営に関して、インフラ長寿命化計画に基づく各種施設・設備の効果的な修繕等により、良好な学修・研究環境の整備に取り組んでいるほか、国際芸術センター青森の青森アートミュージアム5館連携への参画によるアートツーリズム誘客等のPRを実施し施設利用の促進に向けた取組を行っている。

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

大学院については、学生確保のための努力は認められるものの、志願者の増につながっていない状況にあり、大学が持つ教育研究資源の有効活用・地域への還元の視点からも志願者の掘り起こしが望まれる。

大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する取組について、令和元年度から該当なしとなっているが、この取組については、大学のステータス向上にもつながり、結果として受験者数の増加、外部資金の流入等にも寄与すると思われることから、今後の取組に期待する。

- 4 -

Ⅲ 項目別評価

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
学生の学修成果を成績チャートとして可視化して把握し、それをもとに学修アドバイザー面談、成績不振者面談等により、きめ細かに個別指導に取り組んでおり、手厚い学修サポートができていることは高く評価できる。 学生に対し授業評価アンケートを実施し、結果を基にした教育改善、カリキュラムの検証及び改善を推進し、それを「見える化」していることや「大学基礎演習」・「学習導入演習」等の初年次教育を充実させる教育活動を実施していることは評価できる。 地域をフィールドにした演習科目を設定して学修機会の充実を図っている点や、グローバル化への対応として、語学研修や留学にも取り組むほか、オンラインでの海外研究者との共同研究や海外大学生との交流事業に取り組んでいる点は評価できる。さらには、人間としての魅力を高めるための教育として、芸術・文化を理解し、社会的倫理観を身に付けた人材を育成するための取組を行っており、高く評価できる。 県内外の高校訪問、出張講義、進学説明会、オープンキャンパスの実施やWEB-DMの発送などの積極的な学生募集活動やインターネット出願の導入や高大連携事業の拡大など積極的な取組によって、少子化の環境下でも一般選抜において志願倍率3.74倍を達成したことに加え、授業改善、丁寧な学修支援への取組により、高い志願倍率を維持していることや県内からの志願者を多く獲得していることは高く評価できる。 今後は高校における出前講座、講演会等の開催に関して、志願者獲得のみを目指した高大連携事業に留まらず、高校教育と大学教育の接続、あるいは地域貢献という観点からの事業展開も期待する。 大学院志願者の確保について、社会人の学びに関する意識やニーズの把握など、今後の志願者増につながるより一層の取組を期待する。 学生の就職活動へのサポートについては、企業連携推進員を中心とした県内外の企業訪問、学生のインターンシップへの参加促進に加え、新たにミーティングボックスを設置するなどキャリアセンターの充実が図られており、特に県内就職に向けての様々な取組を実施し、手厚いキャリアサポートの結果として、全国平均値を上回る高い就職率を維持していることは、高く評価できる。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

- 5 -

2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
青森学術文化振興財団助成事業に11件が採択されているなど、外部資金を活用しながら、地域課題や国際的課題の研究を推進していることは評価できる。 引き続き、外部からの研究費の拡大等により研究活動の活性化に取り組み、基礎研究及び応用研究の推進について、教員及び研究員に配分している研究費等が最大限活用されるよう期待する。 ホームページや学術リポジトリ、論纂の刊行や青森ケーブルテレビ及びまちなかラボにおける公開講座動画の公開など、学内外へ積極的に研究成果の公表・発信を行っているほか、公開講座を5講座開催するなど積極的に研究成果の社会還元に取り組んでいることは、地域の大学として望ましいことであり評価できる。 青森市産官学連絡会議等の共同研究活動や産官学金連携の取組に参画し、市が抱える課題解決に向けて事業を推進し、地域の大学としての役割を十分果たしていると判断でき、評価できる。引き続き積極的な参画、事業の推進を期待する。 大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰するという項目について、令和元年度から該当なしとなっているが、令和6年度から新たな基準を設けることから、今後の計画実施に期待する。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

- 6 -

3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
地域住民を対象とした公開講座の実施、青森ケーブルテレビでの放映やまちなかラボの活用を通して、大学の教育研究資源や成果を地域社会に還元しようという取組は評価できる。 青森まるっとよいどころ祭りの開催、公益財団法人21あおもり産業総合支援センターと連携した「創業・起業セミナー」の開催、青森市ビジネスアイデアコンテスト等への積極的参画等、多様な地域連携活動に着実に取り組み、地域産業の活性化に貢献しているほか、地域の大学間の連携強化にも取り組んでいることは高く評価でき、今後も更なる取組を期待する。 また、地域貢献活動に必要な交通手段を確保し、学生・教職員が活動に参加しやすい環境を整備・支援している状況は評価できる。 行政施策の遂行のために教員等が青森市の各種審議会や委員会の委員等に就任し、その知見を表明していることや、青森圏域連携中枢都市圏構想に係る地域定着促進事業への取組など、地域課題の解決に向けた市の政策に積極的に関与しており、地域の大学としての使命を果たしているものといえる。 今後ますます社会経済活動が活発になっていくことが想定されるので、引き続き地域経済活動への積極的な参画を期待する。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
事務の適正な配分・効率化のための業務内容や外部化等を検証し、情報処理システムの活用などにより、事務処理を見直し合理化を図っているほか、必要な人材確保や人事評価の試行等、着実に実施していると認められ、評価できる。 ホームページやSNSの活用、イメージ動画の配信等により、大学の広報活動を推進したことは評価できる。 戦略的かつ機動的な大学運営を図る目的から、法人経営と教学全般を包括する戦略会議の定期的な開催に加え、経営審議会、教育研究審議会等の委員からの意見聴取の機会として会議を開催するほか、設立団体の青森市長と理事との意見交換など、課題を踏まえた大学運営の方向性等について自由に意見交換をする場が設けられていることは、風通しの良い大学運営や設置団体と法人との方向性を確認する上で重要なことであり、運営体制の改善に向けて積極的に取り組んでおり評価できる。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

- 7 -

5	経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
受験生確保のために延べ188校の高校訪問を実施し、入試情報の提供及び要望等を聴取したことにより、受験者数も順調に推移し、その結果、入学者数も安定的に推移しており、大いに評価できる。 更なる受験生確保のため、大学の教育研究内容、学生生活等のより積極的な情報発信を期待する。 燃料費、電気料金、その他諸物価の高騰や人件費の上昇など、大学の財政を取り巻く環境が厳しさを増す中で、選択と集中による予算の効率的執行に努めているほか、自己収入の確保に向け、大学施設・設備の外部貸出し、協力金の募集や科学研究費補助金等の外部研究費の申請を推進し、経営・財務内容の改善に取り組んでいることは評価できる。 今後は科学研究費補助金等の申請がこれまで以上に採択されるよう更なる取組を期待する。 内部統制の観点から、日常的モニタリングや独立的評価を実施しているほか、教職員の規範意識を向上させるため、コンプライアンスの学内研修の実施や学外研修への参加を促していることは、非常に重要な取組であり評価できる。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
中期計画や年度計画の進捗管理を定期的実施するとともに、法人の業務実績について自己点検・自己評価し、第三者機関による評価結果を大学運営に反映させPDCAサイクルによる継続的な改善を図るとともに、その反映状況について、ホームページ等での公表や教職員への情報共有など全学的な改善に向けた意識の向上を図っているほか、情報公開により運営全般に透明性を確保しており評価できる。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			

- 8 -

7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
学修環境や教育研究環境を確保するために、効率的な予算執行の下で、講義室の机・椅子、映像機器や音響機器の更新を行い、インフラ長寿命化計画に基づき計画的に学びの場の整備に努めていることは評価できる。 図書館の利活用のために、イベントの実施や利用方法を紹介する動画の作成・配信に取り組んでいることは、学生の学修の充実に資するものと評価できる。 国際芸術センター青森における小中学生等対象の創作体験等の教育プログラムや市民を対象とした展覧会やワークショップの開催のほか、青森アートミュージアム5館連携協議会に参画し、アートツーリズム誘客等のPR事業を実施していることは、地域の大学として大いに社会貢献しているものと評価でき、今後も、様々なアイデアを出し、地域の貴重な財産として活用促進に取り組んでいただきたい。 大学施設・設備の外部貸出しに積極的に取り組んでいることは、自己収入の確保だけでなく、地域の貴重な財産の有効活用にもつながり、地域貢献の面からも引き続き取り組んでいただきたい。 消防訓練・避難訓練については、防災対策と危機管理体制の強化という計画を設定していることから、確実かつ真摯に全学体制で取り組んでいただきたい。 健康診断やストレスチェックの実施、外部の専門家を招いた実践的なハラスメント防止のための研修の実施や相談窓口の明記など、学生・教職員の健康や人権意識の向上にしっかりと取り組んでおり評価できる。 全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。			